

リレーインタビュー

大口町で活躍する社長さんをリレー形式でご紹介いただき、住民有志のおおぐち宣伝部が、大口町にある企業の素晴らしさと、社長さんの人柄をご紹介します企画です。



役に立つこと・貢献することに
存在価値・意義がある

大口精糧（株）

代表取締役 **服部昌司**さん
お米マイスター・朝市会会長

Profile

昭和 37 年生まれ

趣味 ゆったり温泉につかる事 リフレッシュ
できます！もう一つ、世の中を応援
するための投資です。

大口精糧 株式会社

設立 平成 4 年 3 月

大口町外坪一丁目 111 番地 ☎ 95-1000

米穀事業 6 名 介護事業 17 名

どんな仕事をしている会社ですか？

日常生活や社会に欠かせないものを最適な形で提供することで地域に貢献するという信念と使命感を抱いて、米の精米と販売・介護事業に携わっています。全国の米どころ産地から入荷する玄米を精米し、外食店・事業所・各種施設などの食堂・給食会社・食品店などに卸したり、ご家庭用にも販売しています。10年ほど前(平成24年)に大口ケアセンターあかり(グループホーム・下小口二丁目)を設立し運営しています。

社長ストーリー & 苦労したこと・今思うこと

電気工学を学び榊東海理化に就職し車用電子部品の設計開発をしていましたが、4年経過の間に父が倒れ家業を継ぐことになりました。当時は大口町農協米穀部の看板で営業していましたが農協合併を機に、不安と戸惑いの中で独立法人化して大口精糧(株)となりました。直後の平成5年は冷夏の影響で深刻な米不足になり、毎日のように東奔西走し「国産米」を調達確保するよう努めたこともありました。

近年は逆に食の多様化に伴い米消費も次第に減り、特に今は新型コロナによるさまざまな影響で大量に米が余り、諸物価高騰の中で米だけが安くなっています。それでも万が一に備え水田保全のために主食用に代わって家畜飼料用の米を作るという政策もありますが、一番は需要が回復することです。6割以上を輸入食糧に頼っている危険な現状が少しでも改善し、今後も稲作を維持できるような仕組みや需要喚起につながる方法をもっと考えていかなければと思ひ方策を考えています。

大切にしていること

工夫・創造・革新で今ある全てを活かして力強く自立すること、そして周りとの信頼関係を築き貢献すること。

社長の自慢！

米業界は流通も販売方法も大きく合理化されてきましたが、日ごろの人と人とのつながりや良いお付き合い、また魅力ある価値ある商品・サービスによって、特に営業活動をしなくてもお客様がまたお客様をご紹介してくれることもよくあり支えられてきたこと。

会社のスター☆彗

商品管理、配送、納品を担当しています。手際よく、丁寧に確かな仕事をする、頼りになる米屋のベテランです！



▲高木誠之さん(左)
服部祥三さん(右)

取材後記



ふみこ



れいちゃん

会社の利益だけでなく生産者、地元日本の事まで考えておられ、お話も楽しかったです。